

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	A-110	22-022 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
<p>Growing alcohol use preceding death by suicide among women compared with men: age-specific temporal trends, 2003-18</p> <p>男性と比較した女性における自殺死亡前のアルコール摂取の増加： 2003-2018 年の年齢別の経年推移</p>		
執筆者		
Lange S, Kaplan MS, Tran A, Rehm J.		
掲載誌		
Addiction. 2022 Sep;117(9):2530-2536. doi: 10.1111/add.15905.		
キーワード		PMID
アルコール摂取、血中アルコール濃度、自殺、自殺死亡、経年推移		35491753
要 旨		
<p>目的：米国では、過量飲酒および自殺死亡率が男女ともに増加傾向であるが、特に女性において顕著に増加している。過量飲酒は自殺の危険因子であり、自殺死亡率増加の男女差に過量飲酒が関与している可能性がある。そのため、本研究では米国におけるアルコール関連の自殺の性・年齢別の経年推移を明らかにすることとした。</p> <p>方法：全米暴力死亡報告システムのデータを用い、米国の 2003-2018 年における 18 歳以上の自殺死亡者 115,193 名を対象とした。自殺死亡は ICD-10 コード (X60-84、Y87.0) により同定した。全自殺死亡者のうち、血中アルコール濃度が 0.04g/dl 以上、0.08g/dl 以上の場合をアルコール関連の自殺とし、性・年齢別の検討を行った。アルコール関連の自殺割合の経年推移について、Joinpoint 回帰分析により性・年齢 (18-34 歳、35-64 歳、65 歳以上) 別の傾向を調査した。</p> <p>結果：2003-2018 年のアルコール関連の自殺割合は、女性では、全年齢層において血中アルコール濃度が 0.04g/dl 以上、0.08g/dl 以上のいずれの場合も有意に増加傾向であった。血中アルコール濃度が 0.08g/dl 以上の場合、女性では年平均 18-34 歳: 3.09% [95%信頼区間(95% CI): 1.70%, 4.49%]、35-64 歳: 2.03% [95% CI: 1.12%, 2.95%]、65 歳以上: 10.48% [95% CI: 1.17%, 20.65%] の増加を認めた。一方男性では、血中アルコール濃度が 0.08g/dl 以上の 35-64 歳でのみ、年平均 0.81% [95% CI: 0.003%, 1.62%] の増加を認めた。18-34 歳の男女差が特に大きかった。</p> <p>結論：米国では、男性と比較して、女性において特に自殺死亡前のアルコール摂取に経年的増加傾向が認められた。米国の女性における過量飲酒と自殺死亡の増加の関連について、さらなる研究が求められる。</p>		